

新選
作文
開化
用文

教育散士編
全

特33

358

078734-000-9

特33-358

開化用文(新選作文)

教育散士/編

M24.6

DAC-2492



特33
358

頭書
漢語
新選
作文
開化用文
目錄

- ① 年始の文
- ② 花見誘引の文
- ③ 同文
- ④ 暑中見舞の文
- ⑤ 寒中見舞の文
- ⑥ 歳暮の文
- ⑦ 出生爲知の文
- ⑧ 病氣見舞の文
- ⑨ 轉居爲知の文

初丁
二丁
二丁
三丁
三丁
四丁
四丁
五丁
六丁

東京教育散士編

新選
作文
開化用文

東京

同盟書館藏



頭書新選
漢語作文開化用文目錄

- ① 花見誘引の文
- ② 同
- ③ 暑中見舞の文
- ④ 寒中見舞の文
- ⑤ 歳暮の文
- ⑥ 出生爲知の文
- ⑦ 病氣見舞の文
- ⑧ 轉居爲知の文

初丁
二丁
二丁
三丁
三丁
四丁
四丁
五丁
六丁



東京教育散士編

新選
開化用文

東京

同盟書館藏



⑩	借家望の人へ為知の文	七丁
⑪	地面賣買の文	七丁
⑫	同返事	八丁
⑬	旅行為知の文	八丁
⑭	旅行先へ遣はる文	九丁
⑮	旅行先より遣はる文	十丁
⑯	違約の文	十丁
⑰	依頼催促の文	十一丁
⑱	金借の文	十一丁
㉑	同返事	十二丁

㉒	出火見舞の文	十三丁
㉓	死去為知の文	十四丁
㉔	悔の文	十四丁
㉕	商法の文	十五丁
㉖	同	十五丁
㉗	同	十五丁
㉘	同	十六丁
㉙	同	十七丁
㉚	同	十七丁
㉛	同	十八丁

諸証文例目録

- ① 金子借用の文 十九丁
- ② 金子借用証文 二十丁
- ③ 地所賃入の証文 廿二丁
- ④ 田畑小作証文 廿四丁
- ⑤ 奉公人請狀之事 廿五丁
- ⑥ 店請狀之事 廿七丁
- ⑦ 奉公人引取証文 廿八丁
- ⑧ 社中を會せるの文 十八丁
- ⑨ 通計三十ヶ條

- ⑧ 委任狀之事 廿九丁
- ⑨ 離別狀之事 三十丁

頭書通俗は分漢語字解。新曆年中季候の辨。其他字解往復自他の辨。羅馬字體英文習字等。

草体小字	羅馬体大字	A	B	C	D	E		
F	G	H	I	J	K	L		
M	N	O	P	Q	R	S		
T	U	V	W	X	Y	Z		

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
寒冷	冷氣相	秋冷相	殘暑	炎暑難	肅令	薄暑	暖氣	春暖之	春寒未	嚴寒	寒令
向寒	慕候	催候處	秋暑	凌	甚暑之	向暑	和	候	退	餘寒	辨

人ノ手簡往復自他の稱
 貴札、尅、雲、自、の、手、簡、愚、札、
 短章、寸、楮、返、翰、奉、酬、拜、復、
 謹復、貴、酬、貴、報、(賞、美、の、辭、
 清、適、清、福、清、榮、○、又、多、祥、
 安、寧、康、裕、傍、書、梧、下、梧、右、
 几、下、足、下、貴、下、案、下、(人、の、
 息、子、令、郎、令、嗣、(同、女、子、令、
 愛、令、弱、(人、の、妻、令、政、内、室、
 内、相、令、圭、細、君、自、の、子、豚、
 兒、拙、郎、自、の、妻、鄰、妻、山、妻、

頭漢語獨學

① ② の部
 一新 一定 一變 一層 遺憾 遺失

新選開化用文

東京 教育散士編

○ 年始之文

改曆之慶賀目出なや
 納名先以園家念は多
 祥

遺漏	維新	印章	委任	畏縮	依頼	允可	一洗
あちこち	ごうい	いん	まうせき	おそれ	たのむ	あは	あらい

③の部

碌々	碌々	論辨	録事	漏脱	陋巷	魯鈍
ろくろく	ろくろく	ろんべん	ろくじ	ろうだつ	ろうきやう	ろどん
ろくろく	ろくろく	ろんべん	ろくじ	ろうだつ	ろうきやう	ろどん

隨言樂舎先少無兵加馬
 遠の此能也持以者念
 下中先先生右年其
 之師祝詞中其友如斯
 少産の能也永傷之耐在
 怨望謹言

○花見誘引之文

宿る旧盟約中、多岐柳観梅
 明日如何、後分は差支なき
 之の早朝、山殿河津梅
 尤円好仕傍り、此下度右
 所案内、如は疾、特旨

㊦の部

發明あきらか

發兌あきだ

拜謁あひまへ

判事あきつか

拔擢あきあ

拔群あきあ

報知あきせ

○日文

墨堤に桜花申用之由彼

地人より傳少者一あり

内河障し有之は御同

伴中夜右に決定旨に報

知事此翼後勿

○暑中見舞いと文

酷暑甚敷為り共孫心酒

清適を遥賀と云小生幸

無恙はあり放懐是祈

供以亞爾筒兒酒一瓶檣港

より到本任七御暑中見

判然 <small>あきら</small>	保護 <small>あま</small>	方今 <small>あま</small>	廢土 <small>あや</small>	族縦 <small>あや</small>	傍聽 <small>あや</small>	傍觀 <small>あや</small>	版圖 <small>あや</small>
あきら	あま	あま	あや	あや	あや	あや	あや

⑫の部

仕換や

入費やう

入冠てまが

入港とま

入津りし

肉親まご

⑬の部

鳳輦てん子の

本邦ほんこく

奉勅てんのかま

奉詔ほうしよ

没収えつしゆ

俸米ほうまい

俸禄ほうろく

奔走ほんしゆ

舞まひ之の強きやう迫せき皇みかどの御ご笑わら留とどま

疾はや之の亦また存ぞん在ざいの竹たけノ

○寒中見舞かんちゆうけんまひ之の文ぶん

昨きのう今けふ之の言こと奉まを別わか而して難たが渡わお

覚おぼ之の弥や御ご健けん務む車くるま忍しの祿ろく之の

次つぎ之の小こ子こ舞まひ之の舞まひ子こはあ御ご消しょう

念ねん之の言こと之の隨したが為ため此こゝ最まさ極せき有あり念ねん

相あひ進すす彼か之の以もつ比ひ留とどま

不ふ之の

○寒暮かんぼ之の文ぶん

曆れき尾び無な除と白はく晴は之の角かく忙まひ之の

推おし之の矣や然しか矣や以もつ留とどま

僻邑へき 勉强べんきやう 平等へいとう 平均へいぐん 蔑視べつし 閉塞へいさく 閉居へいき 漂流ひょうりゆう

本末ほんまつ 幫間へうかん 褒賞ほうしょう 陛へい 下げ 弊習へいしゆ 兵員へいゑん 弊舎へいしゃ 陛へい 下げ 天守てんしゆ の 城じやう

荆妻けいさい 昨夜けつや 校けう 男子なんし 出生しうしん 産母さんぼ
 子こ 共とも 二に 妻さい 意い 幸さい 二に 以もつ 安あん
 高たか 可か 比ひ 下げ 及及び 世よ 人ひと 二に 有あ 子こ 及及び 校けう
 郵ゆう 便べん 二に 抄しやう 一いつ 為な 以もつ 知ち 中ちゆう 及及び 校けう
 也や

○病者見舞文

竹たけ の 出で 籍せき 全ぜん 部ぶ 下げ 僕ぼく 二に 為な
 持もち 返へん 却けつ 竹たけ の 以もつ 改かい 御ご 文ぶん
 納のう 入にゅう 貴き 覽らん 及及び 余よ 未み 陽やう
 一いつ 屣げんじ 入にゅう 貴き 覽らん 及及び 余よ 未み 陽やう
 僂らう 二に 可か 中ちゆう 及及び 校けう 謹きん 文ぶん

○出生為知文

①の部
 德行 とくぎょう
 土木 どぶく
 土民 どびん
 得失 とくしつ
 都鄙 とふび
 奴隸 どれき
 屯集 とんしゅう

御老母はるる先頃中
 累々として軽症為差はる
 乞食に頼存と出来御
 金瘡に至り趣今領養多
 此と申中常に疎濶
 段是より口海出奉り

屯倉 とんくら
 徒罪 ととざい
 獨立 とくとち
 當直 とうちく
 同盟 どうめい
 ⑤の部
 勅命 ちくめい
 勅書 ちくしょ

洋糖一瓶御覧舞
 近三里の御笑納
 下候餘大後弄相趣
 備の申上る敬白
 ○轉居為家と文
 抄店本月菜白何大區

鎮臺	遲滯	遲速	知己	陳述	治世	誅伐	權幣
ちんたい	ち遅	ち速	ち知己	ち陳述	ち治世	ち誅伐	ち權幣
ちんたい	ち遅	ち速	ち知己	ち陳述	ち治世	ち誅伐	ち權幣

①の部

流連	旅寓	旅館	戮力	吏真	綸言	綸旨
りゅうぜん	りょくお	りょくかん	りよく	りしん	りんげん	りんし
りゅうぜん	りょくお	りょくかん	りよく	りしん	りんげん	りんし

竹山區何番地轉居致

寫ド自今ド出用ハ而右所ハ更

以ハ越ハ上ハ度ハ出ハ有ハ入

年也

○信家望人日ぬおと文

兼多ハ御頼ハと信家坊ハ不

柄ハ中ハ以ハ業体ハ玉極奇

妙且家ハ税ハも殊ハ之ハ外ハ塵

價ハ之ハ均ハバ辞ハをハ足ハをハ年

君ハ明ハ新ハ子ハ御ハ一ハ覽ハ以ハ江ハ極

可然ハ存ハ在ハ早ハと

○地面賣買之文

理言 りげん
 離散 りさん
 律令 りつれい
 累代 るいだい
 累年 るいねん
 縷々 るる
 麻度 まぶ

㊦の部

臆兆 おそく
 臆説 おそく
 應對 おうたい
 應變 おうへん
 温煩 おんぼん
 ㊦の部
 王政 おうせい

先頃中 さきころちゆう
 以依於中 いよおちゆう
 其地亦愈賣却 そのちもよゆまひやく
 及度 及びど
 決定 けつぎん
 傳旨兼而 でんしめいけんじゆ
 佛心 ぶつしん
 其有 そのあ
 其裁 そのざい
 以仰 いおほ
 守 しゆ
 何卒 なふとぞ
 宜敷 よろしく
 以周旋 いしゆせん
 有願 あひね
 無再拜 むざいはい

○同返事

貴札 きさつ
 相稱 あひなづ
 陳示 ちんじ
 地館 ちくわん
 弥以 いよ
 賣却 まひやく
 以 い
 越 こ
 依 よ
 幸 さい
 二 に
 望 のぞ
 仁 に
 有 あ
 者 もの
 以 い
 度 ど
 固 こ
 面 めん
 并 なら
 坪 つが
 敷 しき
 建 けん
 物 もの
 抽 ひ
 代 しろ
 價 う
 地 ち
 稅 ぜい
 亦 も
 明 めい
 細 こ
 者 もの
 以 い
 急 きふ

王室	王命	王臣	王師	和親	賄賂	徃事	或説
ていしん	きんめい	きんしん	きし	わしん	ちゅうりやく	しゆくじ	えんせつ
ていしん	ていめい	てんしの	てんし	あつちの	まひ	まき	おんせつ
あきま	あのち	かまき	ゆきさ	よと	まひ	まき	おんせつ

かの部

更張	更始	簡易	簡便	開拓	開墾	開業
しんちやう	しんし	かんい	かんべん	かいたく	かいげん	かいぎやう
あつち	まきま	かんい	かんべん	かいたく	かいげん	かいぎやう
あつち	まきま	かんい	かんべん	かいたく	かいげん	かいぎやう

以廻一と之根移度也

○旅初め知し文

明葉台高用府何知

下返係ニ暮里什万種

以熟合中一と条八帰宅

之と清示於中後写

右根清系知可也

且茅屋老少而色殊

無之万留雪中何分以

心深と程偏ニ在影

者

○旅初先遣不文

割腹 <small>わくはら</small> たまは	各地 <small>あち</small> まのち	各國 <small>あつこく</small> ま	巧拙 <small>たかしやく</small> ま	講義 <small>かうぎ</small> ま	豪傑 <small>かうたけ</small> ま	海外 <small>かいがい</small> ま	航海 <small>かうかい</small> ま	行幸 <small>ぎやうきやう</small> ま	行在 <small>ぎやうざい</small> ま	感服 <small>かんぷく</small> 同上	感佩 <small>かんぱい</small> ま	姦計 <small>せんけい</small> ま	概畧 <small>がいりやく</small> ま	苛法 <small>かふはう</small> ま	苛政 <small>かせい</small> ま
-------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-------------------------------	------------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	-----------------------------	----------------------------

御考途之砌以中並多
 伴意外之昔情差起甚
 尚感辱至名因而生表
 用向此名標下先至急
 即歸無有之度吐如中
 進也

○旅行先より参入文
 今某日午安ハ時当地
 是初至歳日乗船某名何
 港名則来ル歳日帰宅
 此割三官右以某知
 以下及无何港着此六

苛政 あさまき
 苛法 あさまき
 概畧 あきら
 姦計 あやまき
 感佩 あはれ
 感服 あはれ
 行在 あまの
 行幸 あまの

航海 あまの
 海外 あまの
 豪傑 あまの
 講義 あまの
 巧拙 あまの
 各國 あまの
 各地 あまの
 割腹 あまの

御考途之砌 おんこうと
 御意外之昔情 おんいがい
 尚感 あやまき
 用句 あまの
 御帰 あまの
 進 あまの

今某日午 いまあまの
 是日 こゝろ
 港名 みなと
 割 わ
 右 みぎ
 港 みなと
 着 あ

○旅行先より書入文

割烹	狹黠	交際	貢稅	購求	階級	校正	可否
カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク
カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク

①の部

與謀	庸人	庸醫	譽言	踊躍	容易	預備
カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク
カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク

更ニ電信を以テ報知
 申度也

○違約と文

御約束中へ變々何儀
 屢々有障お起り申す處方
 及當智下先以謝申上

違約とあるに相違多謝あり

仕度異々ふ為根思ふべき

下はあのみ念一すや

○依頼催促と文

御依頼中へ申す件は
 多忙にて有るに及ばず

可 否	校 正	階 級	購 求	貢 稅	交 際	狡 黠	割 烹
あ い	し く ま る	か い の お ん	か い の り ま る	か い の り ま る	ま い の り ま る	か い の り ま る	か い の り ま る

①の部

預 備	容 易	踊 躍	譽 言	庸 醫	庸 人	與 謀
ま い の り ま る	ま い の り ま る	ま い の り ま る	ま い の り ま る	ま い の り ま る	ま い の り ま る	ま い の り ま る

更ニ電信を以て御報知
申度也

○違約と文

御約束申す事
何れ儀
及至る旨下先以御申上
及至る旨下先以御申上

違約とあるは相違多謝あり

社長是れより先相違多謝あり

下しある念一寸申上や

○依頼催促と文

御依頼申す事
何れ儀
多忙とあるは先相違多謝あり

④の部
 大政 おおいさき
 大任 おおいさき
 大樹 おおいさき
 探索 たぐひ
 歎願 なげま
 怠惰 おこる
 柘地 はらち

彈丸 たまご
 體裁 たいさい
 多端 おほい
 誕辰 たんじん
 逮捕 たうと
 卓識 たつしき
 擔當 たんとう
 ④の部

卒者一層の力と下度
 音と云く夫を知る斜堂隣
 相聴可致くふん

○赤法之文
 苗糸の周旋願ふ石香法
 之系如何成及我成

此有在待度亦
 不月と玉名は報知と下度

○同返書

有は西面信ニ書くは而久結
 速世々々好共少云之西沙弟
 近形と糸と糸相調度六お

廉耻	廉直	廉價	歴史	練熟	戀慕	零落	黎民
れんぢ	れんぢく	れんげ	れき	れんじゆ	れんぼ	れんらく	れいみん
れんぢ	れんぢく	れんげ	れき	れんじゆ	れんぼ	れんらく	れいみん

令子	令政	令夢	輦下	伶俐	③の部	祖宗	宗家
れいし	れいせい	れいむ	れんげ	れいり	れいり	そそう	そうけ
れいし	れいせい	れいむ	れんげ	れいり	れいり	そそう	そうけ

是意依而明新矣
 後問以在否有之度存
 好後
 尚年未十付也
 珍之也
 度存也

○ 出た見舞の文
 近侍を出入り延焼の由
 嘆息を併に家族無事
 條に立退成趣御格
 付は承任有合為持之
 若回急調るる何事也

聰明	奏聞	尊王	齟齬	卒然	送籍	素餐	束脩
とらふ あきら	そうぶん あきき	そんおう あきき	そごご あきき	そつぜん あきき	そうせき あきき	そくあん あきき	そくしゅう あきき

○死者の知之文

殿と御尋上り及先祖父母
生ふ時今曉午子一時死
去付は為以知中と後且
甲子と未乙町未ハ豫石祖
父ハ魂之仁有と後万台以

束縛	踈暴	踈漏	①の部	追討	追懷	痛愛	通商
そくばく あき	そくぼう あき	そくろう あき	あき	おひたし あき	おひか あき	いたひ あき	つうしやう あき

手教貴所より各度此報
知取心不宣

○悔之文

御老翁以疾病無復爾際
駿御死去由事駿馬
以病中無残人子之法

通計 とうけい

年の部 ねのぶ

年紀 ねんき

年載 ねんざい

熱中 ねつちゆう

南の部 なんのぶ

南面 なんめん

南京 なんきん

尽天命 每是罪次第也

乍中晦也 然傷者又併

此之八品以追悼 为之二存

隋而 爲酒一樽 生魚双尾

御供神 主主事 亦以謹云

○ 考法と云

乃至 乃至

狼籍 ろうしやく

狼狽 ろうたい

落命 らくめい

老幼 らうじゆう

老手 らうしゆう

の部

今般英國商船一号及

比和業船数艘入津之由今

新電報有之 爲法 爲一

且下 爲一 爲一 爲一 爲一

仕入方 爲一 爲一 爲一 爲一

存之 爲一 爲一 爲一 爲一

農商	農隙	農務	①の部	皇國	皇統	皇祚	皇嗣
こくわ	のうき	のうむ	のうぶ	日本の	天子の	天皇の	天皇の
こくわ	ひま	かみ	こく	こく	あま	あま	あま

通下ノ入ノ表ニ極ノ首尾ニ
 爲る以兄込計以表書以指
 系明る以出張有之度也

○同

沿百以依形中ノ其ノ製表
 器械印以法反寄ノ下精不

皇胤	還幸	回復	群臣	驅役	會計	會合	會社
天皇の	天皇の	天皇の	群臣の	天皇の	天皇の	天皇の	天皇の
あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま	あま

殊ニ廣價ニ而号々も大
 慶付以表年延ノ以
 程中ノ其ノ以

○同

何尔凡何程代價ノ下
 修之表以指合也有之

軍令	軍務	軍監	軍醫	軍艦	貨幣	管轄	寛大
りせいの	りせいの	りせいの	りせいの	りせいの	りせいの	りせいの	りせいの

又ハ御ハ商リハ有ク然ク
 玉名由山知新成心立

○日

御流ニ入至テ何亦見え
 本數百由商至千後何
 之以報也 廿二由商感化

寛典	寛仁	貫徹	確證	活計	頑愚	關係	過失
あまのり	あまのり	あまのり	あまのり	あまのり	あまのり	あまのり	あまのり

多分成山官三不物玉名心以
 返却 万由商心以上

○社中を會古る文

相立院ハ夷講ニ準心各
 位を仰規則法陸爲
 等以自無者高議批

愚昧	確定	課役	訓導	苦情	廣大	屈伸	勲功
ウツマ	キヤク	カク	クン	ク	ク	ク	ク

開化用文終

評ヲ何付之ニ層々生
 大方謀リ度何卒午
 後々時ヨリ以迄の院あり
 以來半々存於秋蓄者

野蕃	譯官	養育	洋服	約諾	頑固	火急
ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ	ヤ

諸證書文例

金子借用之証

印紙
 一金何百圓也
 但し利息金百圓ニ付
 一ヶ月何程
 方々商用ノ有キ書キ金子
 借用ノ実ニ也約定
 通リ本手何月何元

⑤の部
 綱羅 のこらふ
 埋伏 かたて
 埋葬 かめ
 蔓延 ひびく
 磨滅 すりつぶ
 漫滅 めつめつ

⑥の部
 關下 天子の
 形勢 よまひ
 警視 まて
 嚴科 まじい
 刑法 つゝ
 決定 まじ
 協力 あしあせ

創しりぞ橋はし人ひと喜よろこ為な遠とほ返かへ還かへ福ふく可か
 甲あ辰しん未み一ひと水みづ滯とど居ゐ節ふし請うけ
 人ひと引ひ文ぶん森もり空くう玉たま五ご致いた以も為な後のち
 證あかし仍なほ而して如ごと件ごと
 年号 何區
 月日 何町何丁目何番地
 借主 何 某印

借人 何 某印
 何某辰
 金子借用之証
 一 何圓也但之利息何四拜 一ヶ月生何程
 方々 喜獲要印之存書
 印紙

布告	布令	憤發	賦稅	伏罪	符合	復故	◎の部
あきり	あきり	あきり	あきり	あきり	あきり	あきり	

面々金子借用中実
 西也区清儀八何年何月
 何日元利事通区清中
 期日三玉区清中
 我亦不持之家作
 賈拂多区却

公平	公裁	公然	公使	興廢	固辭	國史	懇願
あきり	あきり	あきり	あきり	あきり	あきり	あきり	あきり

取之柳市集惑心お銀ケ中石
 敷ハ為後白證人お立事
 交仍而如件
 何區
 何何行テ自何番地
 何某
 何人
 何某

傳習たんにん 顛末てんまつ 訂正ていせい ④の部
つゝ ちり まら まら

右ノ南何年何月より来ル
 何年何月迄地所賃入致シ
 書面ニ金子借用致シ依シ
 事案中地所賃主誰ハ
 列地代何人方高立地
 租其他區入費ホ然而何

諳誦せんじゆ 哀憐あいにん ⑤の部
せんじゆ あいにん せんじゆ

人より勤り申上ル者一期
 限ニ至リ返上スル所及
 節ハ速ニ地券書替お取
 申上ル約定地賃用
 し証仍申如件

年号 何區
 月日 何年何月何番地

①の部

親裁	親征	親屬	宸襟	出格	盡力	事件
しんさい	しんせい	しんぞく	しんしん	しゅつかく	しんりき	じけん
しんさい	しんせい	しんぞく	しんしん	しゅつかく	しんりき	じけん
しんさい	しんせい	しんぞく	しんしん	しゅつかく	しんりき	じけん

奉公人詰状 官版界紙

何 締下何 迄

何 國何 郡何 村

何 番屋 幾位

士族 某 何男

平民 某 何女

何 業

尚何 何十年 何月

方々若我亦更宿お立當
 河年何月より来ん 何年何

使節 つゑ

失錯 しつさく

庶務 しよぶ

處分 しよぶん

診察 しんさつ

周旋 しゆせん

瞬息 しゆんじつ

終身 しゆうしん

月正何ヶ年より其許へ

何 宿三差出儀お達す

給奉す儀々々々々々々々々

園 之以 拙為 以 替 只 今 約定

之内 金何 園正 更 以 中 及

残奉す儀 追々 商人 中 出

①の部	百官 <small>ひやくくわん</small>	比較 <small>ひひかく</small>	非常 <small>ひまう</small>	微力 <small>ひれき</small>	疲弊 <small>ひへい</small>	裨益 <small>ひえき</small>	誹謗 <small>ひぼう</small>
	あまのやえ	くらぶる	つねぬ	さいま	つれへ	とめふ	ふ

次第直に後—
 期限内の暇を就或は子
 細有る商人より暇中交
 及節ハ以給金差引高
 人身分引新ありん
 方を通りお速急と戻

②の部	問罪 <small>もんざい</small>	問答 <small>もんたう</small>	門地 <small>もんち</small>	摸寫 <small>もしや</small>	目的 <small>もくてき</small>
	ついで	とく	から	とく	めあて

期限中多れ身分
 及儀夫一切我芽引交
 聊市味惑お急中子
 交及為後証仍多如件
 何區
 何何下目何番地信
 何某 (印)
 年号 月日

門闕 <small>カド</small>	摸擬 <small>カギ</small>	摸範 <small>カモ</small>	沐浴 <small>カミ</small>	朦昧 <small>カモ</small>	悶然 <small>カゼン</small>	悶絕 <small>カゼツ</small>	日途 <small>ヒト</small>
<small>カド</small>	<small>カギ</small>	<small>カモ</small>	<small>カミ</small>	<small>カモ</small>	<small>カゼン</small>	<small>カゼツ</small>	<small>ヒト</small>

何某反

店隣状ノ事

此隣後造成者有找お隣人

お立傷店及び其実正也

店賃引後毎月引取限

廿四日納金引取限

制禁 <small>セム</small>	政府 <small>セイブツ</small>	政體 <small>セイテイ</small>	生活 <small>セイカク</small>	贅物 <small>セツブツ</small>	説得 <small>セツトク</small>	聖德 <small>セイタク</small>	セの部
<small>セム</small>	<small>セイブツ</small>	<small>セイテイ</small>	<small>セイカク</small>	<small>セツブツ</small>	<small>セツトク</small>	<small>セイタク</small>	<small>セの部</small>

滞り市にお債引引且右店は

爾等物ハ沙汰ニ任セ為リ後

第一町々も此布告書お書り勿

論依令教對多リは一夜止

お総テ人寄りお書り沙汰ニ後

石名何子ニ限有停業

先鋒	先子	先哲	先格	專賣	成否	潜伏	制服
せんぽう	せんし	せんてつ	せんかく	せんばい	せいひ	せんぷく	せいふく
せんぽう	せんし	せんてつ	せんかく	せんばい	せいひ	せんぷく	せいふく

盛衰	盛宴	生業	誓約	寂寞	昔日	泉下	絶交
せいざい	せいゑん	せいごう	せいやく	せきやく	せきじつ	せんか	ぜつこう
せいざい	せいゑん	せいごう	せいやく	せきやく	せきじつ	せんか	ぜつこう

我亦孫去平處
 何處
 年号月日
 竹基
 印

是正我亦
 何處
 年号月日
 竹基
 印

何處差出
 永之何處
 不之何處
 上之何處
 廣之何處

先鋒	先子	先哲	先格	專賣	成否	潛伏	制服
せんぽう	せんし	せんてつ	せんかく	せんばい	せいひ	せんぷく	せいふく
せんぽう	せんし	せんてつ	せんかく	せんばい	せいひ	せんぷく	せいふく

先鋒
先子
先哲
先格
專賣
成否
潛伏
制服

年号月日
竹基 (印)

是近我亦... 竹基 (印)

盛衰	盛宴	生業	誓約	寂寞	昔日	泉下	絶交
せいざい	せいゑん	せいぎやう	せつやく	せきやく	せきじつ	せんか	ぜつこう
せいざい	せいゑん	せいぎやう	せつやく	せきやく	せきじつ	せんか	ぜつこう

何處... 竹基 (印)

尺牘せきじやく 切迫せつぱく 拙策せつさく 千悔せんかい 消火しょうか 消防しょうぼう 昭然せうぜん 成敗せいばい

製造せいぞう 節制せつせい 全備ぜんび 稅額ぜいごく 精巧せいこう ①の部 推尊すいそん 隨從ずいじゆう

未め任状之事
拙者儀病重之付 何某
と以 邦理 代人 字 拙者 名
義 亦 在 權 限 之 中 代
理 為 及 多 事

一何と云ふ
但し 權限 之 中 在 之
代理者任状仍多如件
年号 何某 印
離別状
一何素氏媒約を以夫婦
自ら今般離縁事

手

出納 まひ だいのり
 數回 かずかい いくばく
 衰微 すいび ちぢまる
 數學 すうがく けつご
 隨意 ざい い きまゝ

頭漢語獨學

送籍を然りて自由
 たゞ毎日を以て

たゞの

何素印

新選開化用文諸證文終
 作文

明治二十四年六月一日印刷
 全 年今月十日出版

定價十錢

東京府平民

編輯印刷
 兼發行者

神田松衛

日本橋區久松町四番地

新刊	帝國普通作文 全冊 <small>教育散士編 定價十五錢特別十錢郵便二錢</small>	新刊	九星方位指南 折本一冊 <small>塵外居士著 定價十錢大特別八錢郵便二錢</small>
書目	山田野亭著 松川半山圖 阿弥陀經和訓圖會 全冊 <small>定價廿五錢特別廿五錢郵便二錢</small>	書目	新選開化用文 全冊 <small>塵外居士著 定價十錢大特別八錢郵便二錢</small>
定價	般若心經和訓圖會 全冊 <small>全人著 定價廿五錢大特別十錢郵便二錢</small>	定價	弘法大師和讃 詞版一冊 <small>改大 並真言宗回向文般若心經 定價十錢 特別五錢 郵便二錢</small>

